

【表紙】

感謝の光 全四巻

【表紙 裏】

【1頁】

感謝の光

全四巻 九七〇米

台湾総督府

Q 第五九一号

検閲済

有効期間

自昭和一八年七月八日

至昭和二七年七月八日

活動写真「フィルム」検閲

規則第十条第二項ニ依リ

手数料ヲ免除ス

障害ナシ

【2頁】

【3頁】

感謝の光 全四巻

梗概 人は——自分の力で生きてゐる——と言ふ自己本位の考へ方をする所に万人共通の誤りがある。此を発見しその考へ方が間違ひである事を覚ることに依つて人は幸福の第一歩を踏み出す事が出来る。覚る事。即ち物の恩に感じ日常生活の中に温かい感謝の心を表す時万人は期せずして和合し求めずして一致し願はずして国家は発展し国力は充実し我が皇国の大使命達成も決して全難ではないであらう

【3頁、上段】

T 1. 感謝の光

T 2. 原作監督 遠藤好蔵

T 3. 撮影 小木曾義和

解説 本田善郎

琵琶 榎本芝水

朗詠 室井春海

(1)

【3頁、下段】

⑤音楽

【4頁、上段】

T 4. 録音 KS トーキ

製作所

操曲 西垣鉄雄

字幕 本多春雄

T 5. 製作 明興社映画部

T 6. 人は自分の力で生きてゐると言

ふ自己本位の考へ方をする

所は万人共通の誤りがある

T 7. この誤りを発見することによつ

て人は幸福の第一歩を踏み

出す

【4頁、中段】

D (1) 人は自分の力で生きてゐると言ふ自己本位の考へ方

をする所に万人共通の誤りがあります。殊に近代の

物質文化と個人主義思想の影響は一層この自

己本位の主張を強めつゝある事は誠に嘆かましい

事であります。われ／＼が此の自己本位の考へ方

それが誤りであると云ふ事を発見することは取も直

さず幸福の第一歩を踏み出す所以であらうと

存じます

D 2. 「自分で働いて自分で生活を営んでゐると云ふ事は

万人共通の観念でありませうけれ共よく／＼

考へてみますとわれ／＼一個の生命は決してそれ

だけで生きて行けるものではありません。天地自然の

【4頁、下段】

⑤音楽

【5頁、上段】

T 8・学問をした――

T 9・金を儲けた――

(2)

【5頁、中段】

恩恵と万邦無比の我が国体と社会全般の限らない恩恵によつてこそ初めてこの生命を全ふする事が出来るのであります。先づ手近に考へて見ましても空気がか或は太陽の光や熱がなかつたら我々は一時も生きてはゐられません。又お互が着てゐる一枚の着物にも一足の靴下にも沢山の蚕が犠牲となり多くの労力が費されてゐます。三度の食膳に上るこれ等のものが夫れど犠牲になつてくれればこそわれどは生きて行けるのであります。さう思ふ時我共は美味い不味いを云ふ所か是導に對して心から感謝せずには居られない筈であります。D 3又俺は学問をしたと云ひますがしかしその学問は大体先輩の学問でありましてそれを願つたのは書物や先生の御蔭であります。D 4又金を儲けたと云ひますけれ共それを儲けさせたのはお客様であります。そしてその儲けた金は国家の造つたものであります。国家が確つかりしてゐたればこそ金も儲かり立派な学問も出来たのであります。それ等は決して自分の力と言ふものではない筈であります。

【5頁、下段】

⑤音楽

⑤音楽

【6頁、上段】

T 11自己本位では生きられない事を自覚する

T 12 そこに報恩感謝の念は湧く

【6頁、中段】

D 5 第一自分の身体その物が親から貰ったものであり、
育てられてたものではありませんか。われ／＼が
斯うして自分の力だけでは生きられないと云ふ事
を覚る事に依つて其処に自づと報恩感謝の念
が湧き自覚ある第一歩を踏み出す事が出来るので
あります。

D 6 親方 「やあお早うー

D 7 魚屋 「お早うござんすー

D 8 親方 「ホウ親台を買ったネ？

D 9 魚屋 「ヘイツ！

D 10 親方 「新しいのを買ったちやねえか。

D 11 魚屋 「エツ？

D 12 親方 「これだよエ、新しいちやねえか

D 13 魚屋 「ア、これですかこりや親方から戴いた車ですよ

【6頁、下段】

⑤ 音楽

⑤ 音楽

【7頁、上段】

(3)

【7頁、中段】

D 14 親方 「エツぢやお前使はなかったのか

D 15 魚屋 「どう致しましてこりや俺しのおまんまの種ですもの。

雨が降ったって矢が降ったって毎日二三十里は乗り回して
ますで・・・ヘイ

D 16 親方 「そんならそう保つ筈アねえぢやないか・・・もう三年
にもなるぢやねえか

D 魚屋 「そりや何しろ親方の心が籠つてゐますからねえ。調子
の車ですぜヘイ！

D 18 親方 「オイはおめえ朝っぱらから俺をなぶるんじやあるま
いなア

D 19 魚屋 「とんでもない親方……この通り親方が下すつた時の証拠がちやんと生きて光つてますぜ

D 20 親方 「エツなんだい——ホウ成程違ひねえ。

D 21 魚屋 「へッくは是ア魚屋でネ親方までや□きませんで……」

D 22 親方 「馬鹿ッ——

【7頁、下段】

【8頁、上段】

【8頁、中段】

D 23 魚屋 「へッ御覧なせいヤア親方の前ですがネあつ——あこの□車を親方だと思つてますんでそれが一日中俺っしの

足代りになつて飛び回つてくれるかと思ふとほんとうに

ありがたくつて……」

D 24 魚屋 「晩に帰えると真先きにこいつを風呂に入れて旦那の背中でも流すつもりで一日中の汚れと汗を流してやるんです

D 25 親方 「ウーン

D 26 魚屋 「ナアくたびれなすつたらう……ゆっくり休んで下

せいよつてね……」

D 27 親方 「フムくソワカイく

D 28 魚屋 「エイ俺らお得意様のお蔭で食べさせて戴いて

ゐるんだが……こんなにして貰つたな親方と親方

から戴いた此の足のお蔭だと思ふとたゞもう有難く

つて毎日お礼を云はずにや居られませんかやネ——

D 29 親方 「フムお前の気持ちやよく解つたよおらも有難がてえが

車□が嬉しがつて光つてるじやねえか。

D 30 魚屋 「へいまだ二三年は大丈夫ですよ

D 31 親方 「マアしつかり稼げヨエツ

【8頁、下段】

【9頁、上段】

T 1 東北地方を襲つた大飢

【9頁、中段】

第二卷

D 1. 数年前東北地方を襲った大飢饉の際一向に被害を蒙らない稲田があつて不思議な存在として村人の間に問題になった事がありました

D 3. 村人甲「彼奴何と云つても教へねえけれど屹度何かう□めえ方法知つてるに違えねえだ

D 2 村人乙「そりやそうとも彼奴の田ばかりお天気が照りつける訳アねえし俺が田と水が変る訳でもねえしの………

D 3. 村人甲「全くだこんなに皆んなが困つてんのに自分だけ稲作つて人に教えねえてんだからの・何て了見の狭い野郎だかと思ふと歯がゆくつてしようがねえ

D 4 村人乙「なアに今日は村長さんが行つたさうだから野郎だつて泥を吐くべいヨ

D 5 村長「作兵衛さん今も言つた通り世の中は自分だけよければそれでいゝと言ふものぢやないんだ・

【9頁、下段】

⑤音楽

⑤音楽

【10頁、上段】

【10頁、中段】

お互かどうかして世の為人の為になる様にと願つて皆一生懸命に働いてゐるあんただけがあれ程の稲を作つてゐてその作り方も教へないで黙つてゐる法がありますか………

D 6 作兵衛「そりやよう解つてますがね、俺らあ稲作るかつてたんだモウ田ア耕して植へるだけの仕事しきア出来ましねえだエイ植へるだけのねエ……

D 村長「フム／＼それで………

D 8 作兵衛 「でつまり稲育てゝ下さるなア土の力だと思つて

ますだヨ・・・・・・・・この土のネ・・・・・・・・ヘイこの土ですヨ・・・・・・・・

D 9 村長 「なるほど面白い・・・・・・・・」

D 10 作兵衛 「だから俺も他所の人と同じにして作つてるん

だが・・・・・・・・ちつとべえ変つてるなア。

D 11 村長 「ウムく」

D 12 作兵衛 「つまり家中の者でなんです。土様有難う・・・・・・・・

と云つて神様の様に思つて土を拝みながら仕事

をしていますだへいたゝそれだけがすへいそれ

だけですヨ

【10頁、下段】

【11頁、上段】

T 2 (画中)

感謝して受けるものには豊

かな収穫がある

T 3 報恩は人生最高の徳

T 4 (線画)

恩忠孝、夫婦和合、兄弟

友愛、朋友信愛、博愛

国体精華

(5)

【11頁、中段】

D 13 村長 「フウく成程・・・・家中の者が土を拝んでゐると

言ふのかヤアそれでよく解つたく誰れかの言葉

に「感謝して受ける者には豊かな収穫がある」と

言ふのがあつたが物の恩に感じてそれを有難く思ふ

心の働がこんなに大きな力になつて人間を幸福に

するものだと言ふ生きた証拠を俺は今お前さん

で明瞭と見られて何だか怖しい様な気がする

ヤアこの心の肥料は稲ばかりじゃない何にでも

利くいゝ肥料だやよく村の人達にも教へませう

ヤアどうも有難うく

D 14 作兵衛 「ヤアどう致しまして・・・・」

D 15 村長「ヤアどうも有難うヤア・・・」

D 16 (解説) 報恩は人生最高の徳目でありまして日本国民独特の彼の忠孝一本の伝統精神もその根底をなすものは此の恩の觀念であります。そしてこの忠孝の幹から伸びる枝葉が夫婦の和合となり兄弟には友愛となり朋友には信愛となり人類には博

【11頁、下段】

⑤混声

⑤音楽

【12頁、上段】

T 5 元且や我は日本に生れたり

T 6 脱帽

【12頁、中段】

愛となり、これに依って智能も啓け学芸も技術も進歩し世々その美を□す国体の精華となつて今日愈々その光を發揮してゐるのであります

D 17 「竹冷」の句に「元且や我は日本に生まれたり」と云ふのがありますが日本の国振り手振りは新年の慣例に最もよく現れる所であります

D 18 (解説) 身を淨め心を□めた初日とともに神靈に領くこれは我等の祖先が神代の昔から受け□つた我が皇室の鴻大無辺なる恩徳に答へんとする報恩感謝の心が天真爛漫にあふれ出た国民赤誠の姿であります

D 19 (解説) 天照大神の御子孫であらせられ皇祖皇宗の御神裔にあらせます

天皇は申すも畏きことながら現御神にましまして神の御心をその俎に継がせ給ひ我等の大御親として常に民草の生成発展のために御珍念遊ばされてゐるものでありますわれ／＼国民は此の尊嚴無比の皇室を畏れながら御宗家と仰ぎ我々の生

【12頁、下段】

【13頁、上段】

T 6 (画中)

この精神!!
この気魂!!

(6)

【13頁、中段】

命の源を皇室に仰ぎ奉ってゐるのであります即ち皇室あつての国家国民でありまして我々の生命は小にしては自分の生命でありますが大にしては御宗家の生命であります

D 20 (解説) 君国の為に一身を捧げると言ふ事は小なる我

を捨てゝ大なる御稜威に生きる事でありまして

日本精神の真髓は実に此処に存するのであります

D 21 (解説) 戦線の勇士が不幸敵陣に斃るゝやその最後の

雄叫びは「天皇陛下万歳!!」これでありませう。

これこそは正に「小なる我」を御稜威の舌に生きんとする刹那の歓びの声であります。

D 22 (解説) この精神この気魂があればこそあらゆる困難を克服して世界戦史の上に燦たる記録を印

し以て今日の戦果を口瀛ち得たのであります。

この赫々たる武勲と将兵の労苦に対し満腔の敬意と感謝を捧げずにはゐられません。今敗戦

【13頁、下段】

⑤ 音楽

⑤ 爆音

⑤ 銃声

⑤ 砲声

⑤ 砲声 銃声

⑤ 爆音

⑤ 砲声

⑤ 馬蹄の音

【14頁、上段】

【14頁、中段】

の□慘禍を見まするにその慘憺たる蓋し言
語に絶するものがあります。家は焼かれ家財は
奪はれ僅かに身を以て逃げ惑ふ混乱狼狽
親を失ひ子に□れ、阿鼻叫喚至る所此の世ながら
の生地獄を現出し、視る者をして目を覆はしせ
るものがあります。

D 23

(解説) 然るに我国に於ては同じ交戦国であり

ながら街にも村にも長閑な生活が営まれ戦
捷を祝ふ歌手の声は津々浦々にどよめき渡つ
てゐるあれを思ひ此れを思ふ時、何んと雖も日
本の国の有難さが身に沁みて感ぜられるであ
りませう

第二卷終

【14頁、下段】

【15頁、上段】

T 1. されどこの栄光と観□
の裏に

(7)

【15頁、中段】

第二卷

D 1. (解説) されどこの光栄と観□の裏に

D 2. (琵琶歌)

敵の固めし堅塁を
肉もて碎き血に染めて
国の柱と建つ友に
せめて心の手向草
戦の傷の戦士よ
父よ夫よ無事なれど
祈る妻子の温き
朝餉の露も夕べには

香の煙の乱れ雲
空も悼みて時雨るらん
嗚呼君国の礎と
散りて還らぬ益良夫は
未だ若木の桜花
惜しみても尚余りあり

【15頁、下段】

⑤音楽

⑤音楽

【16頁、上段】

T2. この榮譽ある犠牲

T3 (画中)

それは全国民の分担せねば
ならぬ犠牲である

T4 生活に現はせ

報恩感謝――

T5 明治天皇御製

国のためたふれし
人を惜しむにもお
もふは親の心なりけり

【16頁、中段】

D3 (読経の声)

この榮譽ある犠牲こそは当然我々全国民の分担
せねばならぬ犠牲であります今日我々が斯うし
た安穩な生活を営まれてゐると云ふ事は此等
の英霊が我々に代つて護国の御柱として立たれた
御蔭でありますから私共が此の英霊を慰め其
の遺族の人々を慰め護ると云ふ事は当然の務で
あります

D4 (解説)

そして之を果すためには国民の一人／＼が其の
職□に応じてこの報恩感謝の誠を日常生
活の上に現して実行して行かなければなりません

D 5 □ 温かい感謝の心、それをお互が行ひの上に現して
行く其処からは限り無い大きな力が生み出される
と云ふことを忘れてはなりません

D 6・(朗詠)
国のためたふれし人を惜しむにも
おもふは親の心なりけり

【16頁、下段】

◎音楽

◎音楽

【17頁、上段】

T 6 脱帽

T 7 皇后宮御歌

あめつちの神々守りませ
いたつきにいたでになやむ
ますらをの身を

(8)

【17頁、中段】

D 7 (解説) この御製を拝するにつけても明治天皇が戦没勇士
の遺族に対し、どんなに深く御同情遊ばされたかは拝
察するだに恐懼感激の極みでありますそして又尊き
自分の一命を皇国の大生命に生かした護国の英霊に
対しては祀るに靖国神社の御祭神を以てせられると云ふ
真に其の御殊遇の厚く御思召しの深きたゞ／＼感
□の外はありません

「死して神に祀られる」
人として此の上の荣誉がありませんか？一徹連の身を
以て神殿深く斉き祀られ
天皇陛下の御親拝を辱し御玉串の御手向けを賜は
ると云ふ光荣は何者にも比べる事の出来ない最高の
荣誉でありまして死して宗栄ありとは真に此の事であ
ります。遺族の方々は申すも更なり一般国民としても
感激これに過ぐるものではありません。神と君とを中心と
して万民共に弥栄え行く広告の有難さが身に沁みて

感せられるのであります

D 8 (朗詠)

あめつちの神も 守りませいたつきに
いたでになやむ ますらをの身を

【17頁、下段】

㊦音楽

【18頁、上段】

【18頁、中段】

D 9 (解説) 昭和十三年十月三日

皇后陛下には傷痕軍人の上を思召していとも有難き御歌を賜りましたが、この御歌の御下賜に先立ち
天皇陛下より軍人援護に関する勅語を賜り且つ
御内幣金五百万円を賜りました今その勅語の一節を排しますれば

「或ハ戦□傷キ或ハ疫癘ニ殪ル、モノ□亦少カラス
是レ朕カ夙夜□□禁ズル能ハザル所ナリ」
と仰せられてあります

天皇皇后両陛下が傷痕軍人の上を思召す御心は
誠に感激に堪へない所であります

D 10

(解説)

われ／＼の身代りとなって戦ひ不幸傷つかれた勇士の傷□
はとりも直さずわれ／＼が痛手であります

D 11

(解説)

「御不自由でございませう」と感謝を込めて御苦勞を
稿ひ「よく戦つて下さいました」と其の功勞に心から敬意
を表して、この人々の苦痛を幾分でもお慰めする事
は我々の当然の務であり陛下の大御心に副ひ奉る
所以であります

第三卷

【18頁、下段】

㊦音楽

㊦音楽

【19頁、上段】

(9)

【19頁、中段】

第四卷

D 1. (台詞)

舟客甲「偉い御難儀なさいましたネエ」

D 2 傷痕軍「イヤ録な働きもしないでたゞ弾丸は射ったと言ふだけなんです」

D 3 舟客乙「とんでもねえ。みんな農等のためにそんな不

自由な身体におんななすつたものこれからは農等

があんたの杖にならなきやなりませんよ。やあ全く

みんなそのつもりで居るんですからねえ、なあ皆さん!!」

D 4 舟客一同「えゝそうですとも〜」

D 5 傷痕軍人「イヤ恐縮です・・・・・・こうして世間の皆様から

御親切にして頂いて全く感謝してゐます。

D 6 舟客甲「そりやあんた国を護つて下すつたあなた方を

守るのは我々国民の当然の義務ですもの御恩は一

生忘れてなるもんぢやありませんよ

D 7 舟客乙「そうですとも・・・・・・咽喉元過ぎて熱さを忘

れるやうちや全く罰が当りますからなア・・・・

【19頁、下段】

⑤音楽

【20頁、上段】

【20頁、中段】

D 8 舟客丙丁「ほんとですな全くネさうですよ・・・・

D 9 傷痕軍人「皆さんのその御心持ち僕などには身に余る光

栄ですこうして皆様の御親切に接するたびに

戦死した戦友の事が思ひだされてほんとうに

堪へられない気持ちになります

D 10 舟客一同「そうでせうネ・・・・そうでせうなア・・・・」

D 11 船頭「軍人さんお怪我なすって御難儀なせえましただ

がおらの倅は戦死して帰ってきまし□てなア

D 12・傷痍軍人「ホウ戦死なすつたんですか

D 13・船頭「へい漢口とかへ行く手前でやられたんだそうですが
彼奴あ偉え親孝行してくれましてなア

D 14 舟客一同「ハア惜しいことをしましたなな全く

D 15 船頭「ナーニおら親の代から貧乏だて村の衆にや

御厄介ばかりかけてゐましたでナア倅が真白い

箱に入つて帰つてきた時にや やれ／＼これ

で俺も村の衆にチヨツトばかり御恩返しが出来た

様な気がしてへい何だか肩の荷が降りた様

でございましたよへい

【20頁、下段】

㊦混声

【21頁、上段】

(10)

【21頁、中段】

D 16 舟客一同「フム／＼／＼

D 17 船頭「それだのに倅の戦死は村の名誉だとか云ふて村の

衆からえらい立派な石塔建て／＼下さいましただよ

D 18 舟客「フムそうですかそりや良かったナア」

D 19 船頭「そうかあれが俺の倅の墓ですよ

D 20 傷痍軍人「あゝあれがそうですか

D 21 船頭「エ、あれがそうですヨ

D 22 舟客一同「あゝ立派なものが建ちましたねえ

D 22 船頭「エ、俺の様な貧乏人じや一生かゝつたつてこんな

石塔なんか出来っこねえだに有難てえこつてすわい

D 22 傷痍軍人「いやそりや息子さんの立派な働きがそうさせ

たんです

D 23 舟客一同「エ、そうですともそうです

D 24 船頭「倅の奴は果報者でございますヨ。

【21頁、下段】

㊦混声

⑤混声

【22頁、上段】

T 1. 二十一年わが子で育て
T 2. 三月見ぬ間に国の神

【22頁、中段】

D 25 舟客乙「なあ船頭さん倅の果報は親の果報だでハツハ
ツハツ・

D 26 舟客甲「えゝそうですともく

D 27 船頭「有難てえこつてすわいなアお客さん倅は歌が好き

だつたんで俺ア此処を通る時にや歌唄つてやりて

えでがすよ俺の歌聞かして「□倅心配えすんな

父っあんばこんな元気ややってるぞ」てえことを

知らしてやりてえだで一つ唄はして貰ひますべい

D 28 舟客一同「サアく一ツ唄って上げなさいよ

D 29 船頭「ちや御免なせいよへい

D 30 (船唄) 二十一年わが子で育て三月見ぬ間に国の神

D 31 (解説) この心情これは誠に全国民の心でなくてはなり
ません

【22頁、下段】

⑤混声

⑤音楽

⑤音楽

【23頁、上段】

T 3 威大なり感謝の力

2 T (袋の文字)

慰問品

慰問袋

感謝袋

5 T (立札)

戦死者故国尾護民宅東南

一丁

(11)

【23頁、中段】

D 32 (解説) 感謝の心程大きな力を發揮するものではありません
土を拝んだお百姓は飢饉の災害から逃れました自
転車の有難さに心から感謝した商人は車の故障
を知りませんでした。私共一枚の紙にも一椀の御飯
にも感謝の心を持つことはそれは結局自分自身
の幸福であると同時に国家の発展を期する所以で
あります時局は今明朗東亜の新秩序建設と云
ふ大目的のために国家の総力を上げて一路邁進
しているのであります

D 33

(解説) 銃後国民が戦場に於ける勇士の労苦を自
分の労苦と思ひ

「御苦労様でございます

「有難ございます

と心からの感謝を込めて送る慰問の品々や尊ひ犠牲
を自分の犠牲と考へ心から感謝と敬虔な心を
捧げると言ふこの気持この心構へは戦線と銃後を
結ぶ何物にも替へ難い大きな力でありまして
実に目的達成への原動力であり一億国民総
親和の根源であります。我々国民の戦没勇士
の英霊や戦死者の遺族並に傷痍軍人の方々

【23頁、下段】

⑤音楽

【24頁、上段】

6 T (立札)

応召者耕作地

7 T (看板)

傷兵保護院

8 T 恩賜財団軍人援護会

9 T (ポスター)

10 T. 一切の物の恩に感じ感

謝の念の燃ゆるところ

11 T 期せずして和合し

12 T 求めずして一致する

13 T 起こせし

報恩感謝の念!!

14 T 完

【24頁、中段】

に対して感謝と敬虔の心を捧げる事は決して一時
的の興奮でなく、永久に変らない新しい国民
道徳とならねばなりません

D 34 (解説) そしてこの新しい国民道徳の確立こそは今わ
れわれの身近に具へられた最も大きな□であり
ます

D 35 (解説) 感謝は幸福の母であります一切の物の恩に感
じ感謝の念の燃ゆる所人々は期せずして和合
し、求めずして一致し、願はずとも国力は充実
し、国家は発展して我皇国の大使命達成も
決して至難ではありません

D 36 (群衆の声)
オオ~~~~~

D 37 (解説)
起せ!! 感恩報謝の念!!

完

【24頁、下段】

⑤ 音楽

⑤ 音楽

⑤ 音楽

【データ採録者：小橋美友紀】【校正：森田健嗣】